

「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく
豊川の減災に係る取組方針

【豊川水系流域治水プロジェクト2.0】

令和6年5月7日

豊橋河川事務所

流域治水プロジェクト2.0

～気候変動下で水害と共生する社会をデザインする～

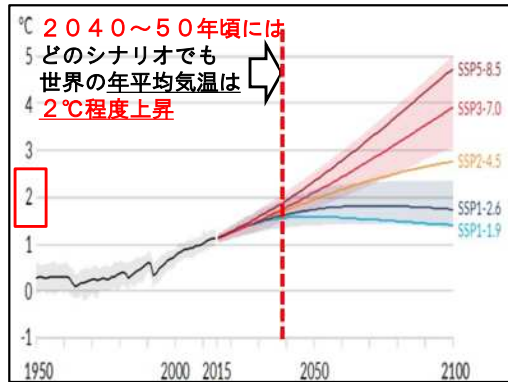
豊川水系
R6.2月13日Ver

■現状・課題

- 2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算。
現行の治水対策が完了したとしても治水安全度は目減り
- グリーンインフラやカーボンニュートラルへの関心の高まりに伴い治水機能以外の多面的な機能も考慮する必要
- インフラDX等の技術の進展

■流域治水プロジェクト更新の方向性

- 気候変動を踏まえた治水計画に見直すとともに、流域対策の目標を定め、あらゆる関係者による流域対策の充実
- 対策の“量”、“質”、“手段”の強化により早期に防災・減災を実現
- **気候変動を踏まえた河川及び流域での対策の方向性を『流域治水プロジェクト2.0』として、全国109水系で順次更新し、流域関係者で共有**

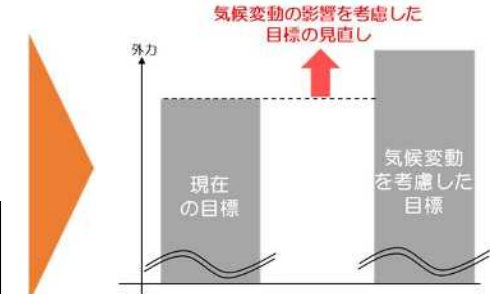


気候変動シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模)
2℃上昇相当	約1.1倍

降雨量が約1.1倍となった場合

全国の平均的な傾向【試算結果】	流量	洪水発生頻度
	約1.2倍	約2倍

※流量変化倍率及び洪水発生頻度の変化倍率は一級水系の河川整備の基本とする洪水規模（1/100～1/200）の降雨に降雨量変化倍率を乗じた場合と乗じない場合で算定した、現在と将来の変化倍率の全国平均値



河川整備計画等についても、
気候変動を踏まえ安全度を維持するための
目標外力の引き上げが必要

■流域治水2.0のフレームワーク ～気候変動下で水害と共生するための3つの強化～

“量”の強化

- ◆ 気候変動を踏まえた治水計画への見直し（2℃上昇下でも目標安全度維持）
- ◆ 流域対策の目標を定め、役割分担に基づく流域対策の推進
- ◆ あらゆる治水対策の総動員

“質”の強化

- ◆ 溢れることも考慮した減災対策の推進
- ◆ 多面的機能を活用した治水対策の推進

“手段”の強化

- ◆ 既存ストックの徹底活用
- ◆ 民間資金等の活用
- ◆ インフラDX等における新技術の活用

水害から命を守り、豊かな暮らしの実現に向けた流域治水国民運動

豊川水系流域治水プロジェクト2.0【スケジュール】

月	流域治水プロジェクト2.0 全国の動き(局・本省)	豊橋河川事務所
R5.8月	先行河川の流域治水 プロジェクト2.0公表	
R5.9月	市随 町時 調調 整整 ・ 検 討	
R5.10月		アンケートに関する説明会
R5.11月		特定都市河川意向確認
	特定都市河川意向確認 (事務所⇒局)	←
R5.12月	必要に 応じて反映	流プロ取組状況等アンケート回答
	公表資料案提出 (事務所⇒局)	←
R6.1月	本省 調 整	
R6.2.15		豊川流域治水協議会幹事会
R6.3.4		豊川流域治水協議会
	3月末:流域治水プロジェクト2.0公表	